

「2019年国立台湾大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学農学部3年 (氏名) 秋葉瑠美花

①本交換留学では、国立台湾大学で行われた中国語の授業やフィールドトリップ、空き時間の観光を通して、中国語を中心とした語学力を向上させることができた。授業で文法や自然な言い回しを学ぶとともに、授業以外で現地の人々と会話をする中でリスニング力やスピーキング力を向上させることができ、日々の飲食店でのオーダーからは、様々な野菜、果物、料理、調味料などに関する語彙を増やすこともできた。現地の人々と会話をする機会が多かったため、台湾ならではの言い方・台湾方言の特徴などについての理解も格段に深まった。また、このような会話から台湾の芸術、名産品、食文化など様々な知識を得ることもできた。日曜日には、自身の専門分野として特に興味を抱いていた東方美人茶の産地を訪問することもでき、茶の製造に関する専門用語の知識も得られた。さらに、訪問先の「新竹」は客家の方々が多く居住される地域であったため、客家語や客家の食文化に触れることもでき、非常に貴重な経験となった。日々の食事では台湾料理を食すことが多く、3週間という十分な期間で様々な台湾料理に触れることができた。もっとも印象深かったのは、ベジタリアン、ヴィーガン向けの「素食」が至る所で食されていたことである。学生食堂や大学内の購買でも必ず素食メニューが提供されており、素食のレストランで出会った男性は「日本にはこのような店が少なく、旅行に行った際に苦労した」と話していた。この経験から得た異文化理解に関する知識は、台湾からの留学生や旅行者と接する際に非常に役立つものであると考える。

②大学一回生の冬にタイ、二回生の冬にインドネシア、三回生の夏に中国(雲南省)に短期留学に行ったほか、チェコ、オーストリア、ベルギー、オランダ、ベトナム、韓国などに旅行に行ったことがある。

③平日午前には国立台湾大学での中国語の授業(プログラム開始前の語学力に応じて4クラスに分けられた)、午後には英語・中国語での台湾文化に関する講義を受け、講義の無い平日の午後や土曜日には故宮博物院や龍山寺、猫空へのフィールドトリップを行った。日曜日や何もない平日の午後は自由行動が可能であった。帰国前日には滞在中興味を抱いた台湾のもの、文化などについて中国語でプレゼンを行った。

④本留学でスキルアップできた中国語や異文化理解は、4回生からの研究生活において、台湾や中国へフィールド調査に赴く際に非常に役に立つと考える。また、これらの地域からの留学生と接する際にも非常に役立つと考える。